

中川さんは第10区のアンカーを務め、総合6位に。来季のシード権を獲得した



夢はマラソンランナー いつまでも走り続けたい

毎年、年が明けると「東京箱根間往復大学駅伝競走」が開催されます。今年、この大会に但馬の高校出身者として初めての出場を成し遂げた豊岡市出身の若者がいます。自分の力を信じ続け、その大舞台で活躍した一人の男性を紹介します。

中川 剛こうさん(20歳)日高町佐田出身

学生ランナーたちの走りの頂点「箱根駅伝」に出場

1月2・3日の2日間、東京と箱根間(217.9キロ10区間)をコースとする「第84回東京箱根間往復大学駅伝競走」が開催されました。同大会に山梨学院大学の代表選手第10区(23.1キロ)として出場した中川 剛さんは豊岡市日高町佐田の出身です。中川さんは「この大会では反省点多かったのですが、出場できてとてうれしかったです」と振り返ります。同大会で正月の晴れ舞台に立てるのはわずか20チーム。前回大会で10位までに入った大学はシード権がありますが、残りの10チーム(うち1チームは関東学連選抜)に入るに



学生ランナーの憧れともいえる「第84回東京箱根間往復大学駅伝競走」に出場した中川さん。空いた時間を利用して趣味のサッカーを友人と楽しんでいる。山梨学院大学2年生

陸上との出会い そして進路の悩み

は、全国から集まる学生ランナーと競い合って予選会を突破しなければいけません。今大会のシード権がなかった山梨学院大学は、予選会を見事突破し、出場権を勝ち取りました。出場するだけでも難しいこの大会は、学生ランナーにとって憧れの舞台ともいえます。中川さんが長距離走を始めたのは、中学生の時。日高西中学校陸上部に入部し、1年生では、短距離走を中心に活動していましたが、校内ロードレース大会で思いのほか成績が良く、陸上部顧問の先生から「長距離走に転向してみないか」という助言もあり、

その後、長距離走に転向しました。走ることに楽しさを感じた中川さんは、豊岡南高校(現・豊岡総合高校)進学後も陸上を続け、経験を重ねながらその実力を高めてきました。

持ち味は長身を活かした「ストライド走法」

高校卒業後、介護職を目指し大学へ進学しましたが、山梨学院大学陸上部監督から入部の誘いがあり、長野県で開催される夏の強化合宿に参加しました。合宿生活では、大学の部員と一緒に走り込みを中心とした厳しい練習に励みました。中川さんは、この強化合宿を終えて、やはり自分は陸上をやりたいということを確認し、翌年、山梨学院大学に入学しました。

入学後、平日は、授業の合間を縫って朝練習と夕方練習に、休日は、朝から正午まで練習に励むなど、陸上一筋の日々を送っていました。「毎日厳しい練習をこなしてきましたが、辞めようと思ったことは一度もありません。好きなことに挑戦し続けられるので楽しいです」と中川さん。彼の持ち味は、18

来年もこの大会で走りたい

「今後の目標は何ですか」という問いに、「大会で走っている時は、監督や部員、家族、知人などが応援してくれているのがわかりました。勇気付けられたことに感謝しています。これまでも変わらず今後も走り続け、ゆくゆくはマラソンランナーとして自分の力を試してみたいです」と自信をのぞかせる中川さん。中川さんの気持ちは、既に、来年の箱根駅伝に向けて走り出していました。



母校の三方小学校を訪問し、子どもたちとふれあう中川さん

強く正しく美しく

豊岡小学校 (豊岡)

案内者 福伊凌介くん



豊岡小学校は、市街地に位置し、周囲には住宅や商店街が立ち並んでいます。現在、31地区から570人の児童が通っています。

豊岡小学校に通う児童会長の福伊凌介くん(6年)は、3年生の時に始めたバスケットボールが特技です。みんなと力を合わせて試合に勝った時が楽しいという福伊くんに、豊岡小学校を紹介してもらいました。



「自ら学ぶ」ことに取り組んでいる豊岡小学校

豊岡小学校の特徴は、「自ら学ぶ」ことに取り組んでいる豊岡小学校

分「へ」を学校の目標にしていることです。これは、誰かに言われてから行動するのではなく、自分で考えて行動できるように、普段から意識しながら生活する取り組みです。もう一つの特徴は、6年生の総合学習の一つとして、「MYドリーム」こんな豊岡にしたい」と題して、職場見学をしていることです。この職場見学では、自分たちが将来やってみたい仕事に関係する市内の会社を訪問して、現場で働く方々にインタビューをしたり、体験をさせていたたりします。

僕は、スポーツ用品店に取材に行き、バスケットシューズについてインタビューしました。そして、聞いた話を記事にし、学校新聞を作りました。インタビューした時は緊張しましたが、記事を書くことはとても

も難しかったです。この職場見学を通して、知りたかった話が聞けたので、よい経験になりました。そして、一人でも多くの人にスポーツの楽しさを知ってもらって、豊岡をスポーツの盛んなまちにしたいと思いました。

また、11月に「防犯ボランティアありがどうの会」を、豊岡小学校の体育館で行っています。これは、僕たちが登下校する道で、毎日、立ち番をしていてくれる地域ボランティアの方々に、感謝の気持ちを表す行事です。今年も、地域の方々と交通安全クイズで楽しんだ後、お礼の手紙や



地域ボランティアの方々と交流する子どもたち

プレゼントを渡したり、たくさん壁飾りを作って、感謝の気持ちを表現しました。豊岡小学校では、このように地域とのつながりを大切しながら、自分で考えて行動できるように取り組んでいます。

笑の顔輪

チームワークが自慢・ミニバスケットボールクラブ

『日高キッズ』(日高)

日高キッズは、平成14年に結成し、現在、日高・八代・静修の3小学校の児童32人が所属しているミニバスケットボールクラブです。メンバーは、毎週土曜日の午後の日高小学校の体育館で汗を流しています。

ミニバスケットボールは、子どもたちにもスポーツの楽しさを知ってもらうことを目的として考案されたバスケットボールで、友情・ほほえみ・フェアプレイの3つの精神を大切にしています。

ルールは、基本的にバスケットボールと同じですが、ゴールの高さやボールの大きさ、試合時間などに違いがあります。

試合中は、コートの中を走り続けることになるため、日ごろからの体力づくりが重要になってきます。

同クラブの代表を務める赤松光さんは、「ミニバスケットボールの見どころは、攻守のスピードとテクニク」と話します。

クラブの練習は、主に体力づくりで、練習時間の大半は走り込みを中心とした基礎体力の向上を目的に行っています。同クラブのキャプテンを務める井上瞬人くん(日高小6年)は、「シユートが決まった時が楽しいです。普段からボールコントロールを集中して練習するように心がけています」と元気いっぱいに答えられました。

同クラブの戦績は、昨年1月に開催された但馬大会で準優勝。続く県大会(今年1月開催)にも出場するなど、今後の活躍が期待されています。



日高キッズのメンバー